

多高通信

第116号 平成27年3月26日発行

国連防災世界会議に参加

グッド減災賞 最優秀賞受賞!

3月14日～18日に仙台で開催された国連防災世界会議に多高生が参加し、世界防災ジュニア会議においてはグッド減災賞最優秀賞を受賞しました。

『世界防災ジュニア会議』にて発表

■後藤 環(2年5組 塩竈二中出身)

私たちは、多賀城高校がこれまで行ってきた防災活動について発表しました。通学防災マップの作成や津波波高調査、電柱標識設置活動、海外からの旅行者の方々に被災地の現状を紹介したことなどについて報告し、グッド減災賞最優秀賞をいただくことが出来ました。また、他の団体の方々の活動内容を聞き、さまざまな視点から震災について考えることの大切さや、防災・減災活動の形は1つではないと感じました。

■下山 彩絵(2年6組 七ヶ浜中出身)

今回の会議に参加してさまざまな団体の発表を聞き、群馬県下仁田地区の住民による自主避難体制づくりや、下着メーカーが考案した数日間身につけていても臭いが気にならない下着などについて知ることが出来、とても参考になりました。また、グッド減災賞の受賞インタビューの際に「どうぞれば地域の防災意識が高まると思うか」と聞かれました。私は、各地域における避難訓練を土日に実施し、平日仕事をしている人々も参加しやすくし、下仁田地区の取り組みのように住民による自主避難体制をつくることで個人の責任感が増し、防災意識がより高まると考えました。地域や企業が連携し、身近なことから防災・減災について一緒に考えることが重要だと思いました。



『持続可能な開発のための教育を』を聴講

■末永 美聖(2年7組 高崎中出身)

私が参加したフォーラムのなかで一番印象に残ったのは、最後の質疑応答で大学生の方が「災害の発生が少ない地域の方々に、東日本大震災のことをどう伝えればいいのか」と聞いたことです。パネリストの方は「世界中どこを探しても、災害がまったく発生しない地域は無い。大切なのは今回の体験を共有し合うこと」と答えていました。私は阪神淡路大震災について話は聞いていましたが、まさか自分たちが住んでいる東北でも震災が発生するなんて思いもしませんでした。



私たちはこの体験を未来の子どもたちに残さなければなりません。震災をどう伝えていくか考えることが、私たちのこれからの課題だと思います。『蒲生に楽しい防災公園を』にて発表

■相澤 真帆(2年5組 利府中出身)

私たちは防潮堤の在り方についてこれまで考えてきたことを発表しました。今回の発表までに被災地の方々の所へ赴きお話を伺うなかで、防潮堤に頼り過ぎるのは危険だと再確認しました。しかし、防潮堤をすぐにでも作って欲しいと考える方がいることも確かです。地域の方々は全員、後世の人々に同じような目にあって欲しくない、自分たちが住む地域をより良い場所にしたいと考えています。私たちも同じ気持ちで活動してきました。私たち若い世代にも、街づくりに参加する権利がもっと欲しいなと思いました。

『3.11の教訓を伝える』を聴講

■馬場 美咲(1年6組 七ヶ浜中出身)

次世代リーダー養成ワークショップでいろいろなお話を聞き、海外の事例をみると日本ではみられないような地域の活動がたくさんありました。私たちのグループは地域社会でのつながりについて

て考え、さまざまな人と意見を共有することで新しい発見や別な視点を持つことが出来ましたし、現実味のあるアイデアが生まれました。他のグループの発表も興味深いものが多かったです。



合唱部 「かたりつき朗読と音楽の夕べ」

「心に花を咲かせよう」コンサートに出演!

■上杉 海琴(2年2組 高崎中出身)

竹下景子さんが朗読した、被災した方の思いをのせた詩は私の心に響くものがあり、震災のときのことを思い出しながら聞きました。ステージ発表では「またあえる日まで」などの3曲を高塚美奈子さんにピアノ伴奏をしていただいていた歌いました。歌い終わった後にたくさん拍手をいただくことが出来てとても嬉しかったです。

■千葉妃代里(2年5組 松山中出身)



今年、合唱指導をしていただいた心に花を咲かせよう合唱団の方々が主催する復興コンサートに出演し、「星に願いを」などを歌いました。合唱団のみなさんへの感謝の気持ちを込め、会場に来ていただいた方々に楽しんでもらえるように歌いました。最後はコンサートに出演した小学生から大人まで全部で150名の大合唱を行いました。こんなにたくさんの方々と一緒に歌う機会はなかなかないので、とてもよい経験になりました。私たちの歌で皆の心の中に花を咲かせたいと思いました。

ラグビー部 県選抜合同チーム

東北大会優勝!

■部長 我妻 言(2年5組 西山中出身)

今回の大会は東北各県の高校ラグビー部のなかで、部員が15名に満たないチームから選抜された選手たちで構成される合同チームで出場し、多賀城高校からは4名選ばれました。初日は岩手、山形と対戦して勝利し、2日目に決勝で秋田と対戦し19対5で勝利し、優勝することが出来、とても嬉しく思います。このような経験はなかなか味わうことが出来ませんし、一緒に戦った仲間や指導してくださった方々、応援してくださった方々に感謝したいです。

37回生卒業おめでとう!

■答辞 中村 明稔(3年1組 七ヶ浜中出身)



高校生活を振り返ると、内容の濃い3年間でした。津波波高調査を始め、生徒会活動、学校行事などを通してさまざまなことを学びました。そのなかの1つが「支える」ということです。さまざまな活動を行うなかで、私1人の力では出来ないことがたくさんありました。多賀城高校は来年、40年という節目を迎えます。在校生のみならずさらに活動を広げてもらい、平成28年度に開設される災害科学科と共に新たな「多高」を築き上げて欲しいです。

■送辞 吉田 健太(2年5組 七ヶ浜中出身)

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。入学当初、不安と緊張でいっぱいだった私たちを先輩方が優しく迎え入れてくださいました。部活動や多高三大行事に積極的に取り組み、受験勉強にひたむきに努力する先輩方を私たちは心から尊敬しています。

先輩方が卒業された後は、先輩方が築き上げた素晴らしい伝統を継承し、多賀城高校をさらに笑顔と活気で満ちあふれた学校にしていきたいと思えます。これまでありがとうございました。

